

「技術提案」作成の注意点

総務省が進める「新たな自治体情報セキュリティ対策の抜本的強化」により、徳島県電子入札システムでは、平成29年7月1日より一太郎ファイルの取扱いができなくなりました。

このため、総合評価（技術提案）申請書（様式4（その2））の標準様式をワードファイルに変更しています。

平成29年7月1日以降に簡易な施工計画を「一太郎」で作成して申請する場合は、**PDF形式に変換**して申請してください。

なお、技術提案をワードファイルで作成した場合も、なるべく**PDF形式にて提出**するようにしてください。

技術提案

工 事 名：緊急地方道路整備工事

評価項目	「社会的要請への対応」に関する技術提案及び施工計画の適切性等
------	--------------------------------

技術提案項目	トンネル掘削時の断層の影響による切羽災害防止や終点側坑口周辺の崩積土である斜面の崩落防止について
--------	--

本トンネルには、地山に存在する断層が掘削進行方向下向きに傾斜しており、トンネル掘削時に突発的な変位の発生が考えられることから、切羽や天端等の地質や断層を適切に評価し、切羽災害を防止することが求められる。

また、当該トンネルの地質は泥質片岩が大半を占め、トンネル掘削時に吸水膨張や応力解放に伴うゆるみが生じ、トンネル終点側にある強風化岩の崩積土である斜面に影響を与えることが考えられる。さらに、この斜面には通行止めが困難な大申地区へ通ずる唯一の市道もあることから、斜面の変状の早期発見および的確な変位状況の把握を行う必要がある。

このことを踏まえ、次の項目について、技術提案を行うこと。

- I 断層がある区間の掘削時における切羽や天端の挙動の観察や計測に関すること
- II 大申地区へ通ずる市道が存在する斜面の挙動の観察や計測に関すること

具体的な施工計画

上記2項目について、以下の内容をそれぞれ記述すること。

- ① 技術提案の概要
- ② 施工方法の適切性（具体的観測、計測手法や工法、主要機械及び設備、施工管理方法等を記述）
- ③ 効果的な創意工夫
- ④ 技術的な裏付け（過去の観測、計測および施工実績等、具体的かつ技術的な根拠を記述）

※1 評価項目「上記技術提案の実現性、有効性を確認するための施工計画の適切性等」については、①の内容が適切な項目に対する②～④の記載内容で評価する。

※2 1項目につき、3提案まで記載可能とする。

記述に当たっては、**（様式4（その2））**を使用し、A4版3枚（3ページ）以内で提出すること。

技術提案

（1枚目、2枚目、3枚目）←該当しないものは消すこと。

共同企業体名： _____

次の工事について、この申請書の内容と同等の又は同等以上の施工を行うことを誓約し、申請します。

工 事 名： 緊急地方道路整備工事

評 価 項 目	「社会的要請への対応」に関する技術提案及び施工計画の適切性等
---------	--------------------------------

技 術 提 案 及 び 具 体 的 な 施 工 計 画 等

I 断層がある区間の掘削時における切羽や天端の挙動の観察や計測に関すること

①技術提案の概要

②施工方法の適切性（具体的観測、計測手法や工法，主要機械及び設備，施工管理方法等を記述）

③効果的な創意工夫

④技術的な裏付け（過去の施工実績等，具体的かつ技術的な根拠を記述）

II 大申地区へ通ずる市道が存在する斜面の挙動の観察や計測に関すること

①技術提案の概要

②施工方法の適切性（具体的観測、計測手法や工法，主要機械及び設備，施工管理方法等を記述）

③効果的な創意工夫

④技術的な裏付け（過去の施工実績等，具体的かつ技術的な根拠を記述）

※A4版に記述するものとし、枚数は**3枚（3ページ）**までとする。

※記述する文字にアンダーラインを使用しないこと。

技術提案

（1枚目、2枚目、3枚目）←該当しないものは消すこと。

共同企業体名：

次の工事について、この申請書の内容と同等又は同等以上の施工を行うことを誓約し、申請します。

工 事 名：**緊急地方道路整備工事** ←※工事名が間違っていないか確認を！

評価項目	「社会的要請への対応」に関する技術提案及び施工計画の適切性等
技術提案及び具体的な施工計画等	
<p style="font-size: 1.2em;">＜記述上の留意点＞</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>特に技術提案を記述する枠（以下「記述枠」という。）内の文字の大きさの規格は10.5ポイント以上とする。</p> <p>なお、「記述枠」の規格値は縦21.0cm、横17.0cm以内とし、55行以内で規格値以内の「記述枠」内にアンダーラインを使用しないで記述することとし、アンダーラインを使用して記述した箇所については、評価の対象としないので注意すること。</p> <p>また、執行機関での印刷結果において、以下の項目に一つでも該当する場合は、「記述枠」内の全ての記述を評価の対象外とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 文字の大きさが明らかに10.5ポイントを下回る場合 ② 「記述枠」が縦・横いずれか一方でも規格値から5mmを超えて大きい場合 ③ 「記述枠」内に56行以上の記述がある場合 ④ A4版でない場合 ⑤ 指定の枚数を超えて記述している場合 <p>注1：手書きの場合も同様とする。</p> <p>注2：文字のうち、写真・図・表等（以下「図表等」という。）の表題、図表等と一体とみなすことができる名称等、また、英数字・単位・記号・カタカナ等は上記①の対象外とする。</p> </div> <p style="text-align: center; margin-top: 20px;">＜記述枠：縦21cm×横17cm以内に制限＞</p>	

※A4版に記述するものとし、枚数は**3枚（3ページ）**までとする。

※A4版**1枚（1ページ）**に記入し、記述する文字に**アンダーライン**を使用しないこと。